

第11回国労フクシマ交流・視察学習会



止まった時間を取り戻すために つながろうフクシマ

2023年11月19日(日)～11月20日(月)

国鉄労働組合

はじめに

東京電力・福島第一原発事故から12年8ヵ月が過ぎ、原発事故被災地での「国労フクシマ交流・視察学習会」も今回で11回目となりました。

東京電力は、本年8月24日から福島第一原発事故により生じた「ALPS処理汚染水」の海洋放出をはじめましたが、1回目の放出は9月11日に完了し、タンク10基に入っていた7,788トンが放出され、10月5日から行われた放射能汚染水の2回目の放出でも、およそ7,800トンが17日間かけて放出されました。そして現在、今月の2日から20日までの間、3回目の処理水の海洋放出が行われていますが、今後も原発に貯められている130万トン以上の処理水が、2051年まで30年間も繰り返し行われることになっています。

日本原子力学会で廃炉の問題を検討する委員会のトップを務める宮野廣さんは「廃炉の本丸はこれから」と指摘し、51年までの「廃炉完了」は技術的に「あり得ない」と述べており、さらに長期間にわたる放出が懸念されます。

汚染水を希釈しても放射性物質の総量は変わらず、海洋の生態系にどんな影響を与えるのかは未知数です。現に長期にわたる海洋放出がもたらす環境影響評価はなされていません。なかでも、燃料デブリを通過する汚染水には、トリチウムだけでなく60種を超える核種が含まれています。なかには半減期の長いものも含まれ、通常原発からの放出と異なっています。そのような現状の中で安易に「30年」で終了するかのような幻想を振りまき、海洋放出を正当化するのはあまりにも無責任といわざるを得ません。

政府は風評被害対策費や漁業者支援基金として、1,000億円を予算計上しましたが、福島県漁連をはじめ宮城や茨城の漁業団体、また全漁連は「あくまでも放出反対」の立場を崩していません。今後30年間、海洋放出を続ければその対策費用は計り知れない膨大な額となることは火を見るよりも明らかです。

いまのところ地元福島の漁業はヒラメなど『常磐もの』の価格に変動はなく、表立っての風評被害はみられていませんが、中国やロシアによる日本の海産物の輸入停止で、海外向けのホタテやナマコなどの輸出量がゼロとなるなどの影響がひろがっています。

漁業資源への悪影響や風評被害をこれ以上拡大させないためにも、いまこそ立ち止まって地下水の抜本的な止水対策を行ない、海洋放出の代替案として、大型タンク長期保管案やモルタル固化保管案等を再検討すべきです。

こうしたなか、去る10月25日、やはり恐れていたように処理水のもとの汚染水を浄化するALPSでタンクから放射性の廃液が飛び散り、配管洗浄作業中にホースが外れて協力会社の作業員5人が浴びて2人が入院する事故が発生しました。

入院した2人の作業員は、着用が義務づけられていたカップを着けていなかったことが明らかになりましたが、東電の作業管理や情報発信に問題があり、地元では不信が高まっています。さらには当初「100ミリリットル程度」と説明されていた飛散が、「数リットル飛散」と訂正され、入院した作業

員を「1次下請け」と説明していましたが、「3次下請け」であることが判明するなど緊張感の欠如と管理体制の不備が改めて浮き彫りになりました。

11月1日に行われた原子力規制委員会の定例会合でも、石渡明委員が「説明が変わるたびに数字が大きくなる」と東電に対する不信感をあらわにしています。

このように東京電力のずさんな経営体質のもとで廃炉作業に携わる多くの労働者は多重下請け構造の中に置かれ、放射線量の高い場所での労働を強いられながら、常に被曝と健康被害のリスクにさらされ、労災事故ひとつとっても責任の所在がどこにあるのか明確になっていません。廃炉作業における現場労働者の健康管理と過酷な被ばく労働に対する労働条件の整備や待遇改善は将来にわたって徹底して取り組まなければならない課題です。

いま福島では2023年3月現在で、県内に6,293人、県外に21,101人、避難先不明5人の合計27,399人の人々が、今なお11年以上にわたる避難生活を余儀なくされています。

避難解除された地域では、復興拠点を中心に町の再生が進められていますが、商店街や医療施設などのインフラの整備が進まず、就労する産業も衰退し、帰還者は、元の人口の1~2割程度に留まっています。

長期にわたる避難で生活の基盤が失われたことも大きく、復興・再生には多くの課題が残されています。一方で、避難指示解除に合わせて避難者は住宅支援などの補償の打ち切りや県内の災害公営住宅からの退去を迫られ、立ち退きをめぐる訴訟も行われています。

JR常磐線は全線復旧から4年目を迎えましたが、福島県富岡町、大熊町および双葉町に残された帰還困難区域はいまだ高い放射線量に阻まれて解除の見通しが立たず、日常生活を取り戻すにはほど遠い現実にあります。

今年3月28日に亡くなった音楽家の坂本龍一さんが、政府の原発回帰に「なぜ」と疑問を投げかけ、メッセージを遺されました。福島第一原発事故の教訓を風化させず、これから国労を担う次世代の仲間たちとともに原発再稼働阻止と再生可能エネルギー政策への転換と脱原発社会の実現に向け、さらに運動をすすめていく決意を固め合いたいと思います。

坂本龍一さんのメッセージ

2011年の原発事故から12年、人々の記憶は薄れているかもしれないけれど、いつまでたっても原発は危険だ。いやむしろ時間が経てば経つほど危険性は増す。コンクリートの劣化、人為的ミスの可能性の増大、他国からのテロやミサイル攻撃の可能性など。なぜこの国を運営する人たちはこれほどまでに原発に固執するのだろうか。ロシアによるエネルギー危機を契機にヨーロッパの国々では一時的に化石燃料に依存しながらも、持続可能エネルギーへの投資が飛躍的に伸びているというのに。わが国では、なぜ未完成で最も危険な発電方法を推進しようとするのか分からない。発電によって生まれる放射性廃棄物の処理の仕方が未解決で増えるばかり。埋める場所もない。事故の汚染水・処理水も増えるばかり。事故のリスクはこれからも続く。それなのに何かいいことがあるのだろうか。世界一の地震国で国民を危険にさらし、自分たちの首もしめるというのに、そこまで執着するのはなぜだろう。



第 11 回国労フクシマ交流・視察日程について

1. 日 時 2023 年 11 月 19 日（日）～11 月 20 日（月）
2. 内 容 (1) 東京電力福島第一原発事故被災地視察
- ① 常磐線運転状況および避難指示解除区域等の視察
 - ② トリチウム汚染水の海洋放出等の現状視察
 - ③ 原発事故・東日本大震災被災関連施設等の視察
- (2) 福島第一原発の現状と課題についての学習会
- (3) 現地からの報告と交流

【11 月 19 日(日) 現地視察・交流会】

【集合時間・場所】 19 日（日）8 時 30 分 東京駅鍛冶橋貸切バス駐車場集合

（19 日 12 時 20 分 JR 常磐線「いわき」駅改札口での合流）

※ 東京駅鍛冶橋駐車場集合を基本とし、全行程をバスでの移動とする。但し、盛岡・秋田・仙台・水戸地本等の参加者はいわき駅からの合流

『現地視察』

13 : 30 いわき駅西口出発（昼食後）⇒久ノ浜・大久ふれあい館

（講話等 60 分）14 : 00 着/15 : 10 出発⇒J ヴィレッジ駅（見学）

15 : 30 着/15 : 50 出発⇒夜ノ森駅（見学）16 : 10 着/16 : 30 出発
⇒17 : 20 ホテル着

<宿泊> 『ホテル丸屋グランデ』 ☎ 0244-23-6221

〒975-0004 福島県南相馬市原町区旭町 2 丁目 28 番地

『ホテルラフィーヌ』 ☎ 0244-23-4111

〒975-0004 福島県南相馬市原町区旭町 2 丁目 29 番地

【11 月 20 日(月) 現地視察・学習会】

『現地視察』

9 : 30 ホテル出発⇒浪江町請戸小学校（震災遺構）視察

10 : 00 着/ 11 : 00 出発⇒双葉町産業交流センター11 : 15 着

※ 昼食 11 : 30～（双葉町産業交流センター『伝承館』内）

『第 11 回国労フクシマ交流学習会』（同会場 12 時 30 分～15 時 30 分）

※ 終了後、双葉駅または東京駅まで車（バス）で移動して解散

交流・学習会次第

『第 11 回国労フクシマ交流・現地視察交流会』

【11 月 19 日(土) 18:30～20:30】

- | | |
|-------------|-----------------|
| (1) 司会・開会挨拶 | 辻 将城 (国労本部業務部長) |
| (2) 主催者挨拶 | 松川 聡 (国労本部委員長) |
| (3) 自己紹介 | 全員から
懇 談 |
| (4) 閉会挨拶 | 岩元 孝信 (国労本部書記長) |

『第 11 回国労フクシマ交流学習会』

【11 月 20 日(日) 12:30～15:30】

- | | |
|-----------|---|
| (1) 司会挨拶 | 大賀 泰男 (国労水戸地本副委員長) |
| (2) 開会挨拶 | 埴 正人 (国労水戸地本委員長) |
| (3) 主催者挨拶 | 松川 聡 (国労本部委員長) |
| (4) 来賓挨拶 | 引地 力男氏 (福島県平和フォーラム事務局長) |
| (5) 講 演 | 「海洋投棄より陸上保管を」
伴 英幸氏 (原子力資料情報室共同代表) |
| (6) 講 演 | 「東電福島第一原発の被ばく労働について」
狩野 光昭氏 (いわき市議会議員) |
| (7) 報 告 | 原発立地関係エリア・地方本部から代表 |
| (8) 意見・感想 | J R採用組合員 他 |
| (9) ま と め | 岩元 孝信 (国労本部書記長) |
| (10) 閉会挨拶 | 小檜山 広幸 (国労仙台地本委員長) |

第 11 回国労フクシマ交流・現地視察学習会写真



いわき市久ノ浜地区で「語り部の会」の方から津波・原発事故被災の実相を聞く



常磐線『Jヴィレッジ』『夜ノ森』駅を視察～モニタリングポストの数値はいまだに0.147 μ Sv/h



大津波のすさまじい破壊力と窓の向こうには東電福島第一原発～震災遺構『請戸小学校』にて



第 11 回国労フクシマ交流学習会～『双葉町産業交流センター』にて



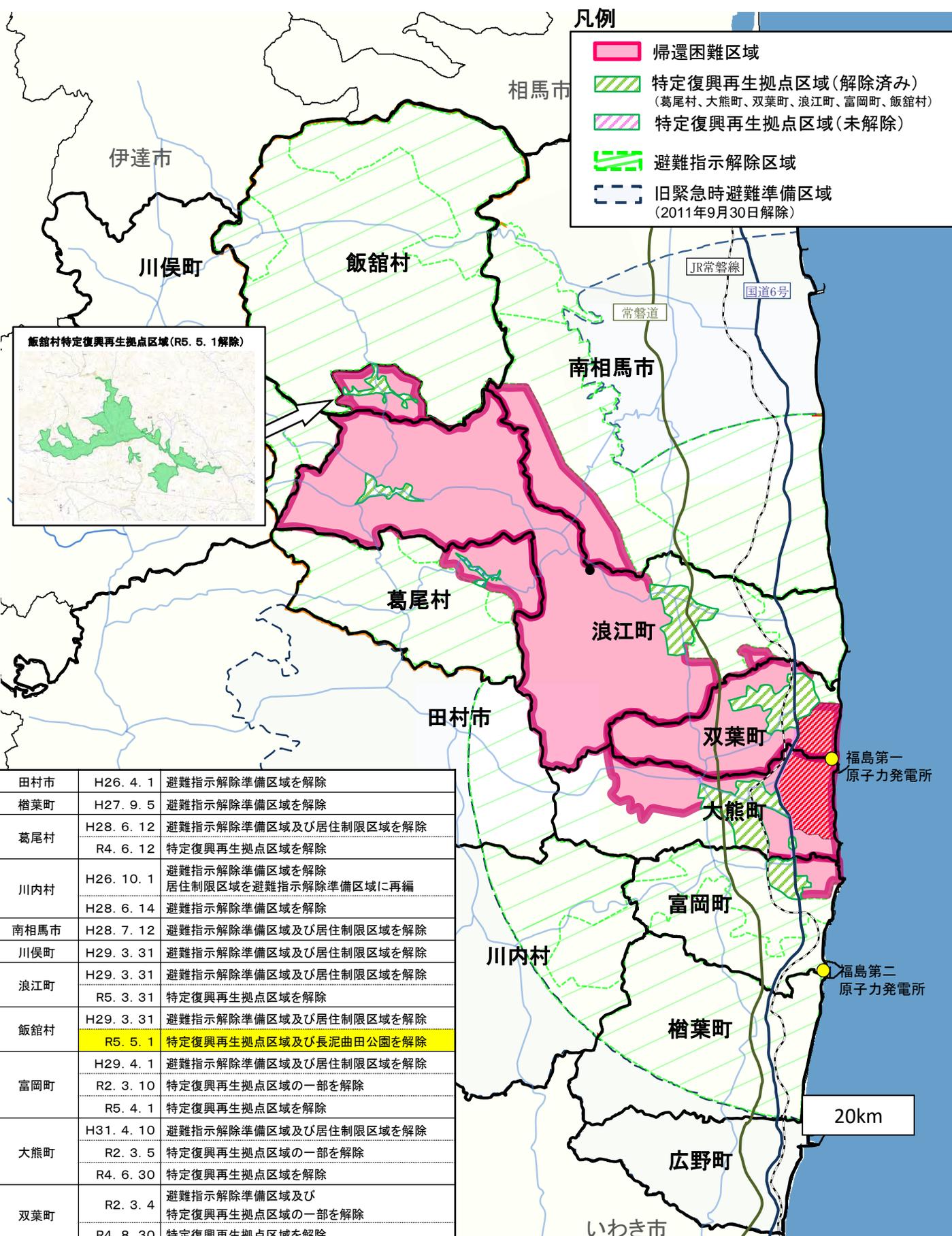
核と人類は共存できない～核廃絶と脱原発社会の実現を 参加者全員で決意を固め合う

避難指示区域の概念図

令和5年5月1日時点 飯館村の特定復興再生拠点区域の避難指示解除後

凡例

- 帰還困難区域
- 特定復興再生拠点区域(解除済み)
(葛尾村、大熊町、双葉町、浪江町、富岡町、飯館村)
- 特定復興再生拠点区域(未解除)
- 避難指示解除区域
- 旧緊急時避難準備区域
(2011年9月30日解除)



田村市	H26. 4. 1	避難指示解除準備区域を解除
檜葉町	H27. 9. 5	避難指示解除準備区域を解除
葛尾村	H28. 6. 12	避難指示解除準備区域及び居住制限区域を解除
	R4. 6. 12	特定復興再生拠点区域を解除
川内村	H26. 10. 1	避難指示解除準備区域を解除 居住制限区域を避難指示解除準備区域に再編
	H28. 6. 14	避難指示解除準備区域を解除
南相馬市	H28. 7. 12	避難指示解除準備区域及び居住制限区域を解除
川俣町	H29. 3. 31	避難指示解除準備区域及び居住制限区域を解除
浪江町	H29. 3. 31	避難指示解除準備区域及び居住制限区域を解除
	R5. 3. 31	特定復興再生拠点区域を解除
飯館村	H29. 3. 31	避難指示解除準備区域及び居住制限区域を解除
	R5. 5. 1	特定復興再生拠点区域及び長泥曲田公園を解除
富岡町	H29. 4. 1	避難指示解除準備区域及び居住制限区域を解除
	R2. 3. 10	特定復興再生拠点区域の一部を解除
	R5. 4. 1	特定復興再生拠点区域を解除
大熊町	H31. 4. 10	避難指示解除準備区域及び居住制限区域を解除
	R2. 3. 5	特定復興再生拠点区域の一部を解除
	R4. 6. 30	特定復興再生拠点区域を解除
双葉町	R2. 3. 4	避難指示解除準備区域及び 特定復興再生拠点区域の一部を解除
	R4. 8. 30	特定復興再生拠点区域を解除

【被災地・久之浜地区 モデルコース】



① 語り部との待合せ場所

いわき市地域防災交流センター 久之浜・大久ふれあい館
 〒970-0333
 福島県いわき市久之浜町久之浜字中町 32 番地
 TEL : 0246-82-2111

※その他の待合せ場所をご希望の場合は、ご相談ください。
 場所によっては、ご希望に沿えない場合がありますのでご了承ください。

② 視察案内

約 20～30 分程度ふれあい館を見学後、バスに乗りし久之浜地区をご案内。

【視察バス（車窓）ルート】

ふれあい館 = 久之浜稲荷神社(秋葉神社)東日本大震災追悼伝承之碑

コミュニティ商業施設「浜風きらら」* = 久之浜漁港

※天候等、語り部の判断により、ルートの変更となる場合もあります。

* 浜風商店街（復興商店街）が平成 29（2017）年 4 月に「浜風きらら」としてオープン

○ふれあい館 2F トイレ
 ・男性…小 2、洋 2
 ・女性…洋 3
 ・バリアフリー… 1

いわき市地域防災交流センター
 久之浜・大久ふれあい館
 (防災まちづくり資料室 2 F)

※大型バス 2 台までは、ふれあい館西側駐車場をご利用ください。
 (3 台目からは語り部において、別途駐車場所をご案内します。)

震災遺構 浪江町立請戸小学校

about
私たちについて

ホーム

私たちについて

施設情報

フロアガイド

お知らせ

アクセス

団体予約フォーム

インタビュー

Ja En

よくある質問

ご挨拶

震災遺構浪江町立請戸小学校のホームページをご覧いただきありがとうございます。この震災遺構は、2021年10月27日に一般公開を開始し、2023年3月末までに約74,000人の方に訪れていただきました。皆様にも是非一度ご覧いただき、震災のこと、津波の恐ろしさなどを考える一つのきっかけにしていただければ幸いです。

目的

2011年3月11日の東日本大震災の脅威や教訓とともに地域の記憶や記録を後世に伝え、防災意識の向上を図ります。

福島県浪江町とは

福島県浪江町（なみえまち）は、福島県浜通り（沿岸部）の北部に位置し、双葉郡に属します。海、山、川に囲まれ、豊かな自然を誇り、大塚相馬焼やなみえ焼そばといった名産品でも有名です。



2011年3月11日の東日本大震災は、福島、宮城、岩手を中心とした東日本全体に甚大な被害をもたらしました。

福島県では、東京電力福島第一原子力発電所の事故のため、双葉郡の市町村の住民は避難を余儀なくされ、浪江町21,000人の町民は全国に散り散りになりました。

震災遺構 浪江町立請戸小学校

ホーム

私たちについて

施設情報

フロアガイド

お知らせ

アクセス

団体予約フォーム

インタビュー

Ja En

よくある質問



その後、浪江町内の避難指示が継続する中、除染やインフラ復旧、生活基盤の再生が進められました。2017年3月31日には、一部地域の避難指示が解除され、一部地域での居住ができるようになるなど、復興に向けた取組が進められています。一方、現在も多くの町民が福島県内外での避難生活を余儀なくされています。（浪江町ホームページより抜粋）

[浪江町ホームページ「すぐわかる浪江町」](#)

請戸小学校とは

請戸小学校が位置する請戸地区は、津波による死者が127名、行方不明者27人と多くの犠牲が出ました。海から約300mに位置する請戸小学校でも、誰も経験したことのない長い揺れに襲われました。



防災無線が大津波警報の発令を知らせる中、校舎には下校した1年生11人を除く、2年生から6年生までの児童82人が残っていました。教職員はすぐに児童に対し避難を促し、避難場所に指定されている学校から約1.5キロメートル離れた大平山を目指しました。

教頭先生が最後に校舎内外を確認していると大津波が押し寄せてくるのが見え、地震発生から約40分後に請戸小学校は津波の被害に遭いました。

引率者用 事前学習資料

この度は請戸小学校にお越しいただき、ありがとうございます。

本校は海岸から300mに立地しており、地震発生から約50分後に津波が直撃した小学校です。児童93名全員が助かった「奇跡の学校」として知られていますが、ご来場者のみなさまには震災を身近な存在として感じていただくキッカケになっていただけたらと思います。

問いかけてみて
ください！

Q こんなときどうする？

【 立っていることもできない大きな揺れ（震度6強）が発生しました。
あなたはどのような対策をしていますか？ 】

case 1

自宅、学校、職場の危険性

自分たちの暮らしている、通っている学校や職場では、大地震の直接的な被害（倒壊・地割れ）や二次災害（火災・津波・土砂崩れなど）はどのようなことが起こるか想像したことはありますか？



避難経路や防災グッズの準備はできてますか。

case 2

通信手段の断絶

携帯電話や固定電話が使えなくなってしまった時に、家族や友人などどのように連絡を取り合うか話し合ったことはありますか？



災害時は日常使用しているものが全く役に立ちません。

請戸小では、普段からこんなことを意識していました。

考えられるリスク



地震

津波

原発事故

そのための対策

- ・ 職員は、自然災害は必ず起こるものという認識を持つ
- ・ 普段から災害時の最善を知る / 考えておく
- ・ 先生と子どもの信頼関係を築く
- ・ 地域の人との繋がりを大切にする

ホームページに、実際に震災を経験した方々のお話を掲載しています。
事前学習の際にお読みいただくとより一層理解が深まると思います。





ここがおかしい

政府の

原

発

推

進

方

針

福島第一原発事故から12年が経過、いまだに「原子力緊急事態宣言」は解除されていない
廃炉の目途はたっていない

原発再稼働、新增設で電力需要ひっ迫解消？

エネルギー危機を脱する？

- 電力消費量は毎年下がっている
- 原発が稼働すればその分火力発電を減らすので総発電量は変わらない
- 電力需要のひっ迫は一時、ピーク電力総量を減らす工夫(節電)をするべき
電源投資として原子力は非効率
- 使用済み燃料を入れておく場所がいっぱいで数年後には止めなくてはならない
- 原発の建設期間は10年、太陽光発電は1年、洋上風力発電は数年程度かかる
- 処理・処分できない核のゴミが増すだけ
→「世代間責任」次世代へツケを回すわけにいかない

原発の運転期間延長(60年超)？

- 「40年ルール」は福島第一原発事故後に導入された安全規制
- 原則40年、1回限り最大20年の延長
=どれだけ長く運転しても60年で廃炉になるはず
- 原発は60年を前提に設計されていない
- 世界の最高齢原発 スイスのベツナウ原発などでも60年未滿
- 運転期間規制に科学的根拠なしというのであれば、
運転期間延長にこそ科学的根拠なし
- 電力会社に導入意思はなく企業は生産ラインを維持できない、
投資対象にならない



原水爆禁止日本国民会議

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11

TEL 03-5289-8224

FAX 03-5289-8223

連合会館1階 平和フォーラム内

<http://gensuikin.peace-forum.com>



ここがおかしい政府の

原発推進方針



原発新設？次世代革新炉への建て替え？

- 「革新軽水炉」すでに中国や欧米では建設されているものと同レベルの原発、「次世代」で「革新」だから安全性が増したと思いがち、「次世代」でも「革新」でもない
- 政府試算で1基あたり6200億円、欧米では1兆円、場合によっては2兆円の建設コスト
「事業環境整備」自社だけでは建設困難、原発の建設費を国民に負担させるねらい

核燃料サイクル、高レベル放射性廃棄物

- 六ヶ所再処理工場が26回目の延期により完成しない
= 事実上破綻している
- 再処理できないのに使用済み核燃料を全量再処理し、ガラス固化する政策はあり得ない

詳しくは

岸田政権の原発回帰批判 新たな原発活用方針の矛盾

原子力資料情報室・原水爆禁止日本国民会議
2023年4月20日 300円

をご覧ください

岸田政権の原発回帰批判

新たな原発活用方針の矛盾



原子力資料情報室
原水爆禁止日本国民会議



原水爆禁止日本国民会議

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11

TEL 03-5289-8224

FAX 03-5289-8223

連合会館1階 平和フォーラム内

<http://gensuikin.peace-forum.com>





ミライノウミプロジェクト 放射能汚染水の海洋放出に反対する プロジェクトに賛同いただけませんか

東日本大震災・福島第一原発事故から12年。
いまだに避難生活を強いられている住民が27,000人以上いるなかで、
日本政府は再び原子力推進施策に舵を切りました。福島では、「ALPS処理水」と政府・東京電力（東電）が呼ぶ汚染水の海洋放出が強行されようとしています。政府・東電は一方的に「ALPS処理水」は安全で、海洋放出を行っても問題ないことをアピールしています。



政府・東電は「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」と約束したことを反故にし、福島県漁連をはじめとする地元の反対があるにもかかわらず、「廃炉のためには仕方ない」とさらなる負担を福島の人たちに課そうとしています。

政府・東電は汚染水を海洋放出しないと廃炉作業に支障が生じるとしていますが、とりあえずの土地確保でしかなく、廃炉の具体的道筋も描けない中でのその理由は、ごまかしでしかありません。韓国、中国をはじめ太平洋諸国からも海洋放出反対の声があがっています。

● ともに放射能汚染水の海洋放出に反対の声をあげましょう。

ご賛同のお申込みは裏面をご確認ください



「ミライノウミプロジェクト」呼びかけ団体

私たちは原子力エネルギーに頼らず、再生可能エネルギーで生活する持続可能な社会の実現をめざしています
原子力資料情報室(CNIC)／原水爆禁止日本国民会議(原水禁)／福島県平和フォーラム

私たちの主張

- ・汚染水の海洋放出に反対します。
- ・政府・東電が主張している安全性について反証します。
- ・福島県漁連をはじめ、地元で反対している人がいることを知って、受け止めてください。
- ・安易な海洋放出ではなく、タンクの増設等を検討するべきです。
- ・原発事故により生じた放射性物質は二度と自然界に放出せず、封じ込めなくてはなりません。
- ・放射能による健康被害について、補償すべきです。
- ・キレイナウミをミライにまで残さなくてはなりません。



思い描くミライ

- ・原発事故により放出された放射性物質を恐れることのない安全な暮らし
- ・自然環境をこれ以上壊さず、人と自然が共生できる持続可能な暮らし
- ・海産物を食したり、海でレジャーを楽しんだりすることに不安を感じない暮らし
- ・生活する人が笑顔で安心して子どもを育てられる暮らし
- ・原発のない暮らし

具体的なとりくみ

- ・放射能汚染水の海洋放出に反対する署名を立ち上げ、できるだけ大規模でとりくめるようにします。
- ・「ミライノウミ プロジェクト」ホームページを立ち上げ、汚染水海洋放出反対の発信を行います。
- ・賛同する団体や個人を募り、放射能汚染水海洋放出反対運動のプラットフォームをめざします。
- ・ショートムービーを作成し、一方的な政府・東電のプロモーションだけではないことを訴えます。
- ・汚染水の海洋放出を阻止することが第一目標。
仮に強行されてしまったとすると、一刻も早く海洋放出を止める運動に継続的にとりくみます。
- ・海外にむけてアピールできるよう、多言語での発信をおこないます。
- ・「知ってほしい」「忘れないでほしい」「約束を守ってほしい」とする現地のみなさんと連帯したとりくみをおこないます。

この活動に賛同いただける方はオンラインフォーム、紙フォームおよびメールにてご連絡ください



オンライン賛同フォーム

団体、個人どなたでも賛同いただけます

右側のQRコードからフォームにお進みいただき、必要事項をご入力の上、送信をお願いいたします。



メールでお申込み

contact@mirainoumi.info

件名を「賛同申込」として、団体名もしくは個人名、メールアドレス、電話番号、ご住所をご記入のうえメールでお送りください。



紙フォーム

申し込み用紙については、呼びかけ団体にお問合せください。
呼びかけ団体は表面に記載しています。



<https://mirainoumi.info>

お問合せ: contact@mirainoumi.info

7/30日 から!

クラウドファンディング開始予定 ▶▶

<https://readyfor.jp/projects/mirainoumi>



「ミライノウミプロジェクト」キャラクター
製作者: 鈴木邦弘さん

(イラストレーター/絵本作家)



Youtubeチャンネルで動画配信中!
@mirainoumi

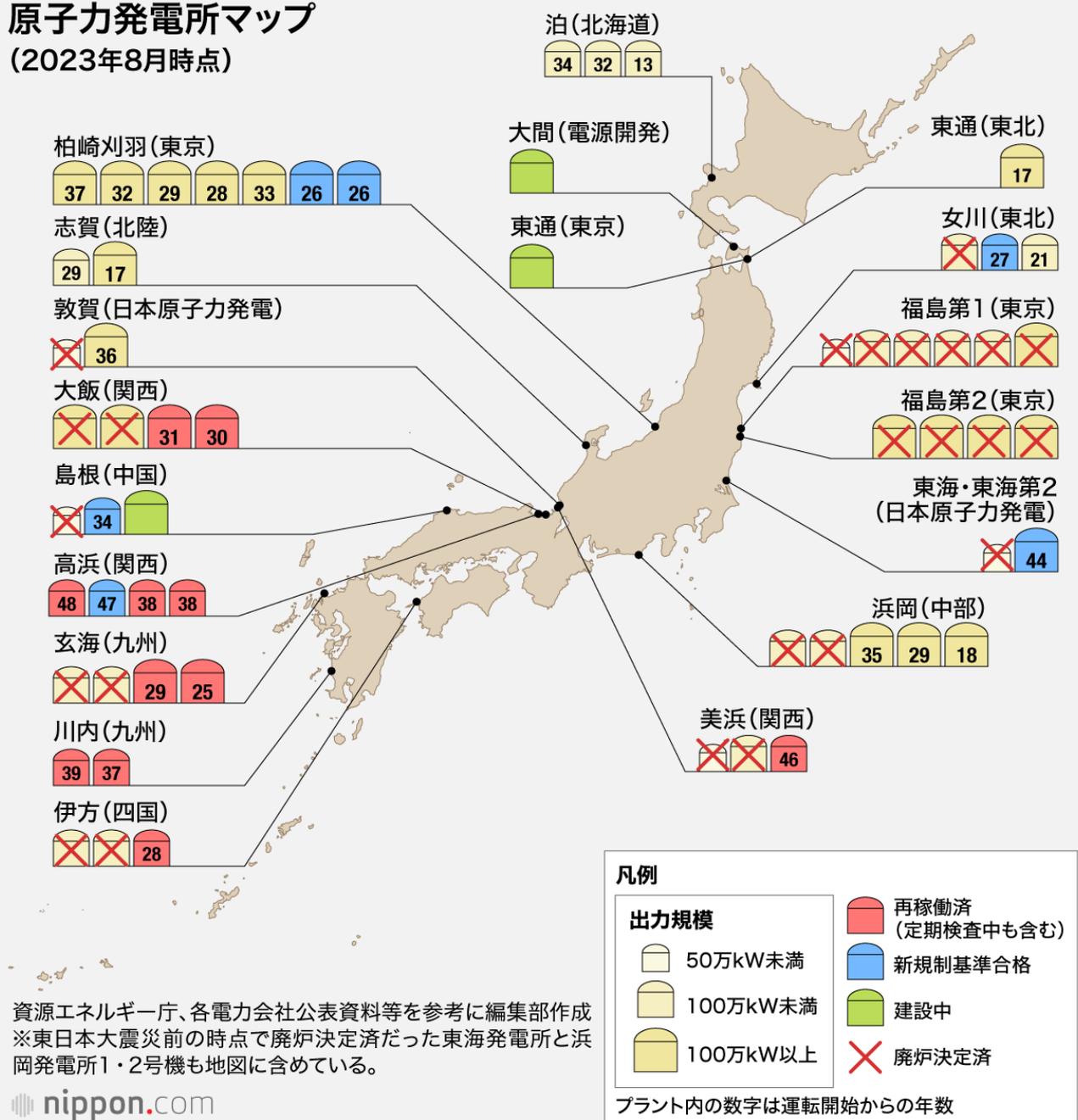
<資料>

常磐線（いわき～原ノ町間）と伝承館・双葉町産業交流センター



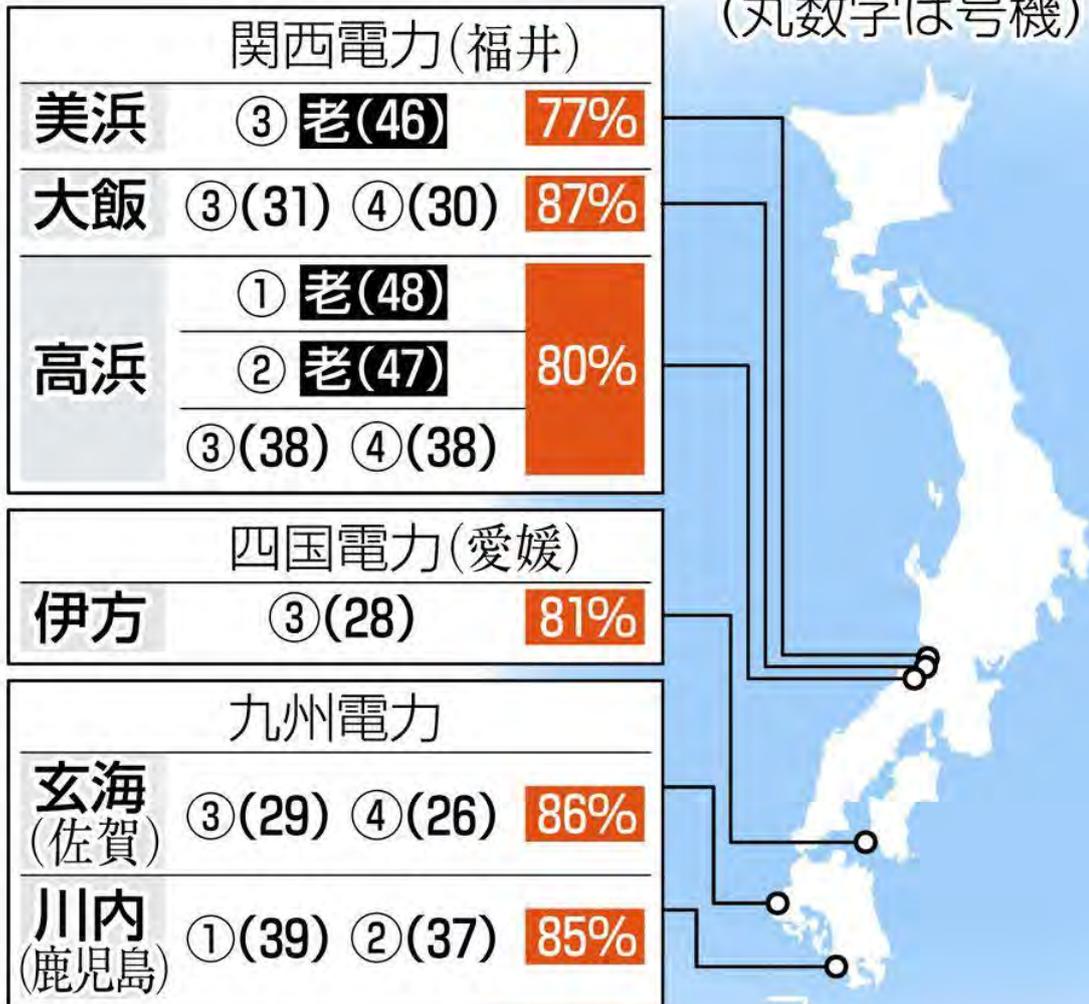
全国の原発再稼働と廃炉の現状

原子力発電所マップ (2023年8月時点)

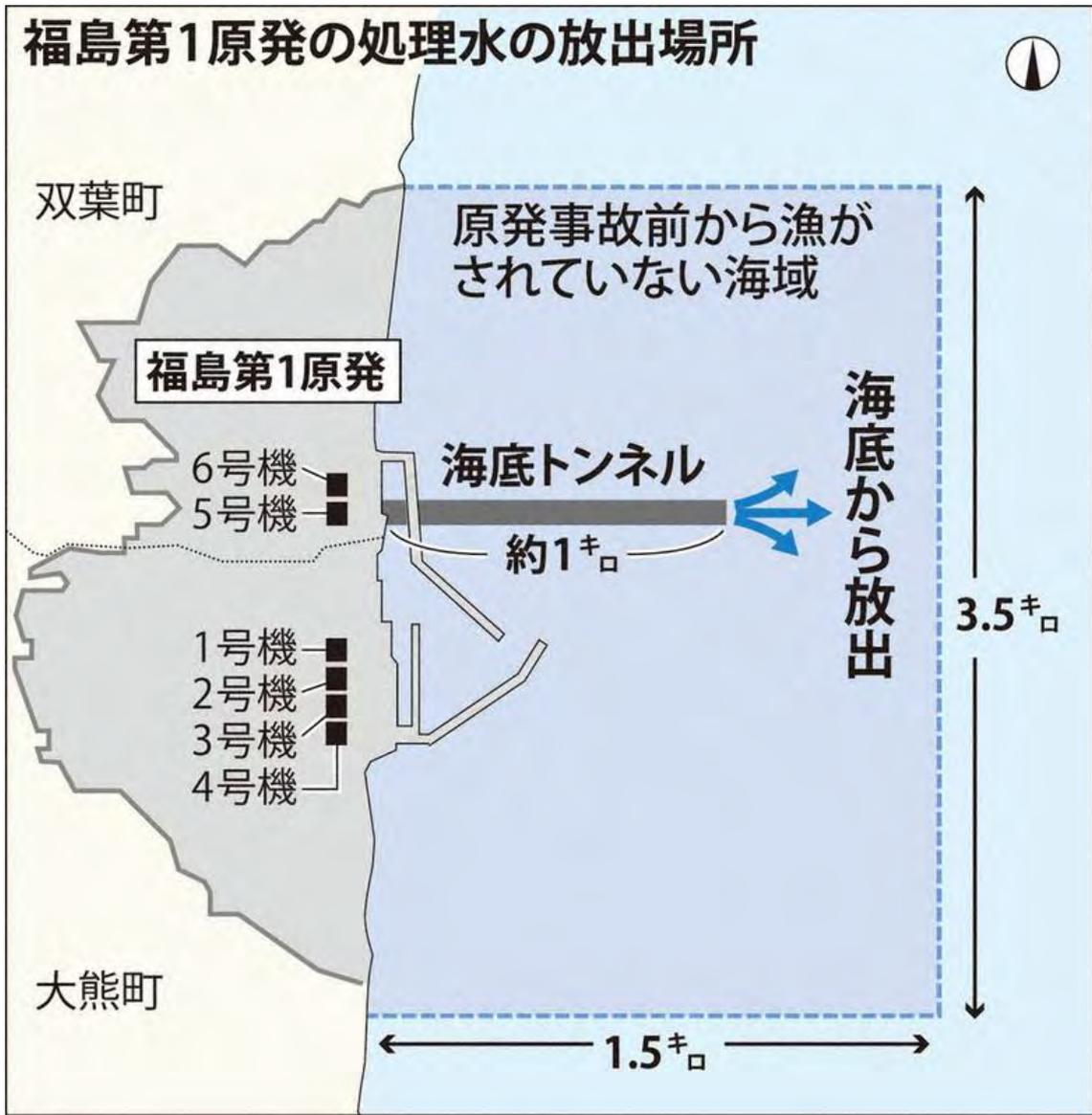


再稼働済みの原発の状況

(丸数字は号機)



- 老** …運転開始から40年超
かっこ内は運転開始からの年数
- …%は使用済み核燃料の貯蔵率
(今年6月時点、電気事業連合会調べ)



東京電力福島第1原発の 処理水海洋放出を巡る経過

8月24日	東京電力が処理水の海洋放出を開始。 中国が日本産水産物の輸入停止を発表
9月11日	1回目の放出完了。放出した処理水は 7788トン
10月 5日	2回目の放出開始
23日	2回目の放出完了。放出量は累計1万 5598トン
25日	汚染水を浄化する多核種除去設備 (ALPS)で作業事故。配管の洗浄 中に作業員5人に廃液が付着し、2 人が入院
26日	東電が記者会見で、入院した2人がかっ ぱを着ていなかったと説明。11月2日に 3回目の海洋放出を始めると発表
30日	東電が会見で、作業員が浴びた廃液の 量や作業の人員態勢などを訂正
11月 2日	3回目の放出開始



難航する2号機のデブリの試験取り出しのイメージ

